

鉄の絆 釜石から

北九州市職員への報告



牛島慎一郎さん



釜石市の西側にある遠野市との境に「仙人峠」があります。峠を越え、空港がある花巻市まで行くのは自動車専用道路が速くて快適ですが、新緑や紅葉の時期は急カーブが続く旧道(国道283号)が絶好のドライブコースになります。

海への思い 写真に

製鉄発祥伝える釜石線

10月末、派遣職員2人と仙人峠の紅葉狩りに出掛けました。昼夜の寒暖差が大きいかから、植生の違いからか、九州では大分県の九重山頂付近まで歩いて行かないと見られないような紅葉が、道路沿いに見ることができず。赤や黄、緑の絵の具をちりばめたような美しい山々の景色を堪能しました。

（花巻―釜石）が通っています。森の中を走る景色の良い鉄道なので、釜石でのお気に入りの一つです。同線は古い歴史があり、明治13（1880）年

に日本初の官営製鉄所が釜石市に開業し、日本で3番目の鉄道として、市中心部と鉱山があった仙人峠を結ぶ「釜石鉄道」が開通しました。大正4（1915）年に峠の西側を走る岩手軽便鉄道（花巻―遠野）も通りました。難所の仙人峠は

おり、釜石が「近代製鉄発祥の地」だったことを伝える遺産となっています。釜石線では、2014年から蒸気機関車の「SL銀河」が4月末から10月上旬の土日釜石―花巻間で運行しています。私も釜石駅に開かれました。北九州市派遣職員の中村幸一さん（62）が展覧した「Kamaishi ブルー」と名付

物を送っていたそうです。その後、長い年月を経て内陸と沿岸が結ばれ釜石線が誕生しました。今でも釜石鉄道の名残の赤レンガ積みアーチ橋などが現存して

真を撮りました。駅には多くの乗客や写真を撮る人がいて、にぎやかでした。こうした取り組みで市民が元氣になり、多くの人が

東日本震災では津波で大勢の人が犠牲になりました。コンクールは「海は非常に怖い一方で、大切な役割がある。海とともに生活しました。釜石湾を背景に、釜石の観光名所「釜石大観音」にある「恋人の聖地」のモニユメントを撮影した作品です。構図の良さと釜石の海と空のブルーの美しさを表現できたことが評価されたと思います。

興支援ができればうれしい」と言っていました。常（牛島慎一郎・北九州市釜石復興支援統括官）

割がある。海とともに生活した。釜石湾を背景に、釜石の観光名所「釜石大観音」にある「恋人の聖地」のモニユメントを撮影した作品です。構図の良さと釜石の海と空のブルーの美しさを表現できたことが評価されたと思います。



銅賞を受賞した中村幸一さんの「Kamaishi ブルー」